

「関西タグラグビーフェスティバル2011」  
琵琶湖CUP in 長浜ドーム  
～安全で魅力あるタグラグビーにするために～

**アンケート報告書**

— タグラグビー活動意識調査 —

平成23年5月31日

関西ラグビーフットボール協会  
普及委員会タグラグビー部門

# アンケート報告書

## タグラグビー活動意識調査

### 【introduction】

2011年5月21日（土）「関西タグラグビーフェスティバル2011琵琶湖CUP in 長浜ドーム～安全で魅力あるタグラグビーにするために～」が滋賀県長浜市にある長浜ドームで行われた。第2回大会ということもあり、関西圏の小学生を中心に、中学生、小学生の保護者なども大会に参加した。チャンピオンシップ大会ではなく、3つのカテゴリーを作り、タグラグビーの持つ特性である、誰もが一緒にプレイできる大会であった。

本調査は、現在、タグラグビーをする人たちの意識調査をすることで、今後のタグラグビーとラグビーの関わり合い、タグラグビーからラグビーへ指向が変化するかを調査した。タグラグビー実施者の意識を調査することで、今後のタグラグビー事業展開へ基礎データを提供することおよび、ラグビーへの誘因方法を考察するデータとして有益であると考えられる。

### 【1. 調査目的】

タグラグビーは、本格的なラグビーへのきっかけ作りとしてラグビー協会も普及に尽力をしている。安全で取り組みやすいということで、学校での活動も地域によっては積極的に進められている。小学生年代では、全国規模の大会も行われている。今後も、より多くの場所、性別、年齢に関わらず、盛んに行われるだろう。

しかし一方で、タグラグビーが本格的ラグビーへのきっかけになっていないという批判的な意見もある。タグラグビーからラグビーへの諸問題は、様々な側面からの分析が必要であろう。

本調査では、タグラグビー経験者が、実際にラグビーに興味を持ちプレイしたいと考えているのか。タグラグビー活動者の意識調査をすることで、今後の普及施策へ寄与することを目的とする。

#### ⑤他のスポーツ経験

(学校運動部、地域クラブ、民間スポーツクラブでの活動)  
野球、サッカー、バレー、バスケ、柔道、空手、ラグビー  
ない、その他

#### ⑥タグラグビーが楽しい楽しくない

楽しいところ  
トライをしたとき  
相手を抜いたとき  
パスが繋がったとき  
勝ったとき

#### ⑦運動が好きか嫌いか

- ⑧何らかの運動を続けたい
- ⑨タグラグビーを続けたい
- ⑩本格的なラグビーを行いたい
- ⑪タグラグビーは安全だと感じる
- ⑫ラグビーは安全だと感じる
- ⑬実際のラグビー観戦をしたい
- ⑭来年の大会にも参加したい

### 【2. 仮説】

#### 仮説①

**タグラグビーを継続する希望がある**

#### 仮説②

**タグラグビー参加者は、ラグビーに興味がある**

#### 仮説③

**タグラグビー経験が本格的ラグビー実施へと繋がる**

### 【3. 調査内容】

- 1-①年齢 ②性別 ③学年 ④参加(カテゴリー)
- 2-①タグラグビー継続年数1年、2年、3年、4年、それ以上
- ②タグラグビー活動場所学校運動部、ラグビースクール、民間クラブ未加入、その他
- ③ラグビーの経験有無
- ④スポーツクラブ所属の有無  
学校運動部、ラグビースクール 民間スポーツクラブ、未加入、その他

### 【4. 調査対象】

- 1) 母集団；長浜ドームタグラグビーフェスティバル 参加者(481人)
- 2) 場所； 滋賀県長浜市長浜ドーム
- 3) 回収率：73%
- 4) 有効回答数：329(回答数：351)
- 5) 方法：来場者アンケート法

### 【5. 調査日】

平成23年5月21日(土)

### 【6. 調査方法】

- 1) 来場者自記式調査
- 2) 回収方法；当日記述回収

### 【7. 調査期間】

関西ラグビーフットボール協会  
普及委員会タグラグビー部門  
〒530-0022  
大阪府大阪市北区浪花町1-2-3 第10新興ビル8F

【結果と考察】

【年代別】

**参加年齢は**、6歳から12歳が82.3%（271）と全体の8割を占めている。登録状況を参考にすると、参加チーム数64チーム、参加人数484名。琵琶湖CUP（参加チーム：30、参加人数：222）、長浜CUP（参加チーム：18、参加人数：133）、近江CUP（参加チーム：16、参加人数：126）となっている。分かる範囲内で成人人数を調べた結果、64名、全体の14%にあたる。

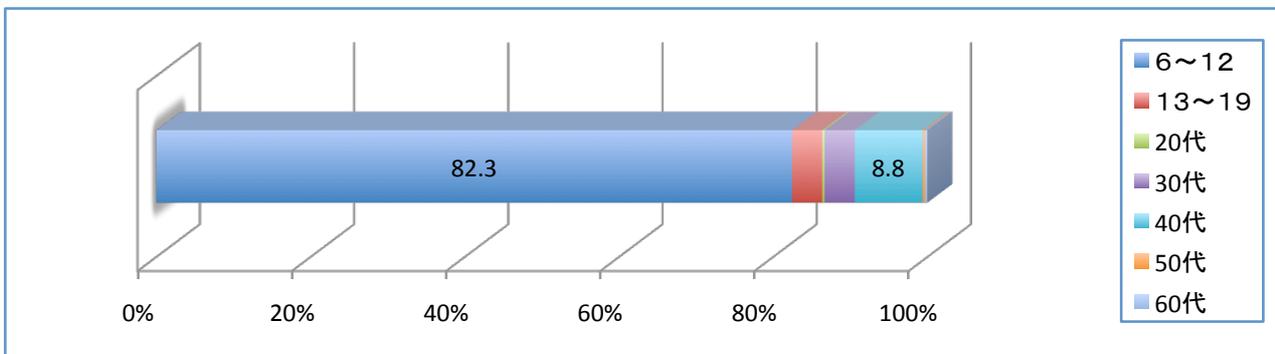
タグフェスティバルが、従来の小学生を対象にした大会とは違い、幅広い年代を対象にしていることが理解できる。

しかし、登録チーム備考を調べても、タグラグビー参加者の保護者が参加していると思われる。40代のちょうど小学生子育て世代やその関係者で占められている。

今後は、中学世代、高校生世代のタグラグビー経験世代が育っていくことが考えられる。また、一般の人たちにとっても容易に大会に参加できるような施策が必要となってくるだろう。

<年代別 表-1>

年代別	(%)	n
6~12	82.3	271
13~19	3.9	13
20代	0.3	1
30代	3.9	13
40代	8.8	29
50代	0.3	1
60代	0.3	1
		329



<年代別 図-1>

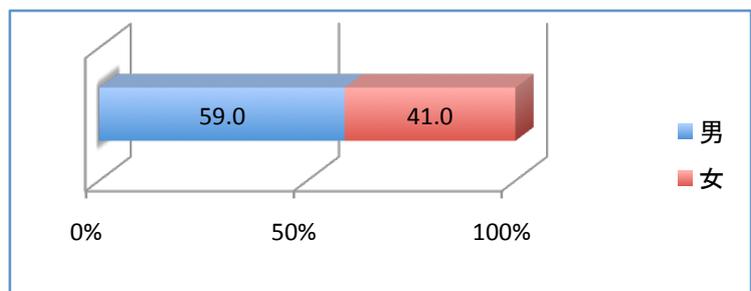
【性別】

**参加性別は**、男：59.0%、女：41.0%となっている。ラグビーなら圧倒的に男の登録者数が多いが、タグラグビーは、男、女の性差に関係なく、参加できる特性が本大会でも出ていると考えられる。また、各競技レベルにあわせて琵琶湖CUP、長浜CUP、近江CUPと3つのカテゴリーを作り大会が運営されたことも影響があるかもしれない。他の調査との比較が困難なため、参加の比率については考察を控える。

参考として、近江CUPでは、大人と低学年の子どもたちが混ざり合い、高学年チームと対戦したり、女子日本代表選手がチームに入り対戦したりという場面もあった。

<性別 表-2>

性別	(%)	n
男	59.0	194
女	41.0	135
		329



<性別 図-2>

**【学年別】**

**学年別参加者は**、小学高学年が多く、中学年、低学年と年齢が下がるにつれて参加者が少なくなっている。6年生26.4% (87)、5年生25.5% (84)、4年生14.9% (49)、3年生8.8% (29)、2年生3.6% (12)、1年生0.6% (2)、その他19.5% (64) となっている。その他は、大半が大人となっている。

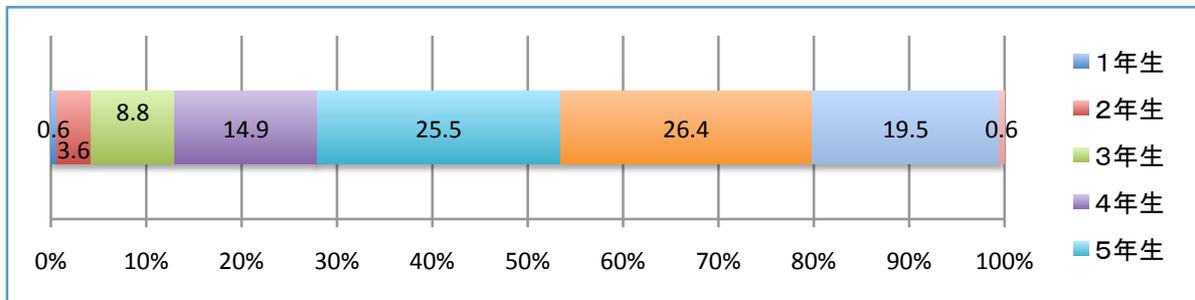
手でボールを扱うことが出来るといっても、低学年ではボールをパスをするよりも、ボールを持って走ること（ランニング）することに主眼かあると思われる。そのため、ゲームの成立が困難であることが予測される。

低学年では、ボール遊びや、ボールを自分でもって走るといったスキルを主として指導することが望ましいと考えられる。中学年、高学年になるにつれて、ゲームスキル、チームスキルといった、他者との共同作業が必要なゲームが成立すると考えられる。

今回の参加学年別から、結論づけることは出来ないが、小学校、中学年、高学年がタグラグビーゲームの成立が一つの目安と思われる。

<学年別 表-3>

学 年	(%)	n
1年生	0.6	2
2年生	3.6	12
3年生	8.8	29
4年生	14.9	49
5年生	25.5	84
6年生	26.4	87
その他	19.5	64
無回答	0.6	2
		329



<学年別 図-3>

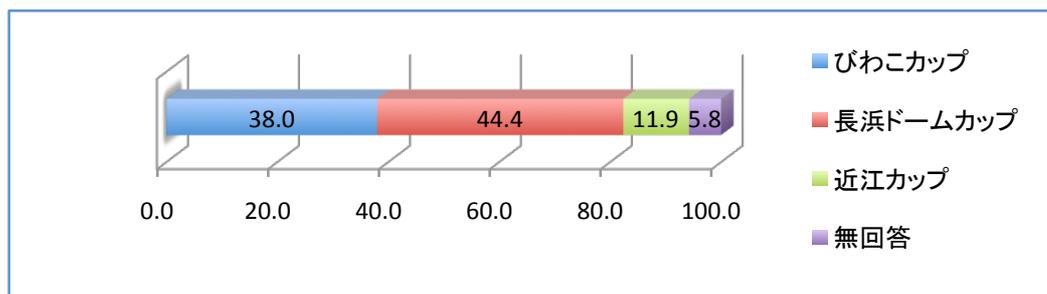
**【参加カテゴリー】**

**参加カテゴリーは**、琵琶湖CUP (小学生・経験者)、長浜ドームCUP (小学生・初心者)、近江CUP (初心者・小学生の部) の3つのカテゴリーにより、登録が行われた。

\*登録状況の参考、参加チーム数64チーム、参加人数484名。琵琶湖CUP (参加チーム：30、参加人数：222)、長浜CUP (参加チーム：18、参加人数：133)、近江CUP (参加チーム：16、参加人数：126) となっている。

<参加カテゴリー 表-4>

参加カテゴリー	(%)	n
びわこカップ	38.0	125
長浜ドームカップ	44.4	146
近江カップ	11.9	39
無回答	5.8	19
		329

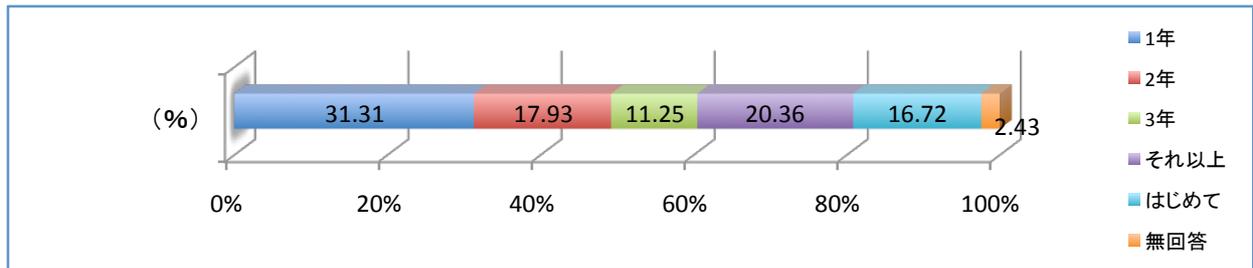


<参加カテゴリー 図-4>

<ラグビー継続年数 表一五>

**ラグビー継続年数は**、はじめて16.72% (55)、1年31.31% (103)と経験が浅い人もいる。2年17.93% (59)、3年11.25% (37)、それ以上20.36% (67)と継続しているものも多く存在している。ラグビーも一過性のもではなく、継続して行える環境があることが考えられる。今後も、調査を通じて継続者の年数などを調べることで、継続年数が、3年以上というものも調べていく必要が生まれると予測される。

ラグビー継続年数	(%)	n
1年	31.31	103
2年	17.93	59
3年	11.25	37
それ以上	20.36	67
はじめて	16.72	55
無回答	2.43	8
合計		329

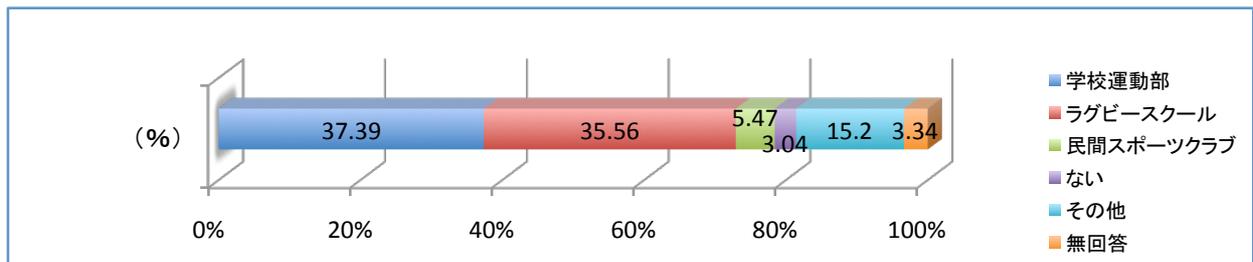


<ラグビー継続年数 図一五>

<ラグビー活動場所 表一六>

**ラグビーの活動場所は**、学校運動部37.39% (123)、ラグビースクール35.56% (117)、民間スポーツクラブ5.47% (18)、ない3.04% (10)、その他15.2% (50)、無回答3.34% (11)となっている。ラグビースクールでも、ラグビーが行われていることが分かる。また、学校の中でも、盛んに行われ、学校内で完結せずに大会参加まで行われている。学校への普及活動を進めるとともに、指導員へのサポート体制も構築していく必要があると考えられる。

ラグビー活動場所	(%)	n
学校運動部	37.39	123
ラグビースクール	35.56	117
民間スポーツクラブ	5.47	18
ない	3.04	10
その他	15.2	50
無回答	3.34	11
合計		329



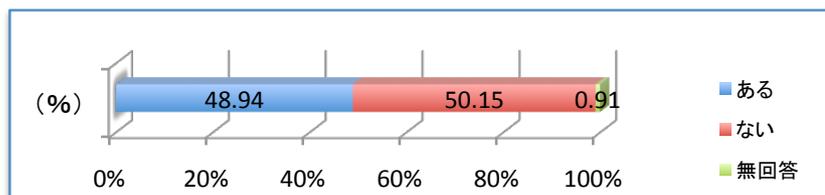
<ラグビー活動場所 図一六>

**ラグビーの経験**については、あると回答したものが48.94% (161)、ない50.15% (165)となっており、ほぼ半数ずつとなっている。

ラグビー経験者の半数は、何らかの形でラグビーを経験している。ラグビーが先か、ラグビーが先かの興味はあるものの、どちらへも多くの参加が望まれる。

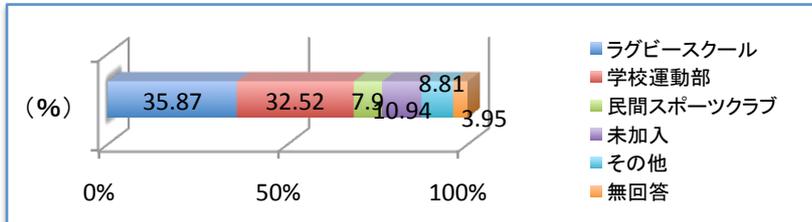
<ラグビーの経験の有無 表一七>

ラグビーの経験の有無	(%)	n
ある	48.94	161
ない	50.15	165
無回答	0.91	3
合計		329



<ラグビーの経験の有無 図一七>

**スポーツクラブ所属については**、ラグビースクール所属が最も多く35.87%（118）ついで、学校運動部32.52%（107）となっている。全体として7.6%のものが何らかの運動部に所属していることが分かる。（大人の参加者も含まれることを考慮）



<スポーツクラブ所属の有無 図-8>

<スポーツクラブ所属の有無 表-8>

スポーツクラブ所属の有無	(%)	n
ラグビースクール	35.87	118
学校運動部	32.52	107
民間スポーツクラブ	7.9	26
未加入	10.94	36
その他	8.81	29
無回答	3.95	13
合計		329

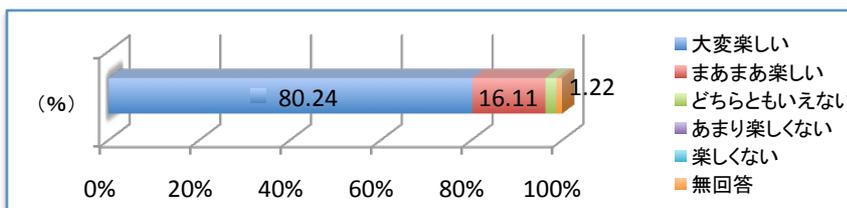
**他のスポーツ経験については**、複数回答でラグビー31%（103）、バスケット15%（48）、サッカー13%（43）、野球12%（40）、バレー11%（35）、空手6%（21）、柔道5%（15）、ない16%（51）、その他35%（116）であった。その他の中には、卓球や水泳などが含まれていた。複数回答であったため、1人でいくつものスポーツを経験している例も多くみられた。

<他のスポーツ経験 表-9>

他のスポーツ経験	(%)	n
ラグビー	31%	103
バスケット	15%	48
サッカー	13%	43
野球	12%	40
バレー	11%	35
空手	6%	21
柔道	5%	15
ない	16%	51
その他	35%	116
合計	329(n)	472

（複数回答）

**タグラグビーが楽しいか、楽しくないかについては**、大変楽しい80.24%（264）、まあまあ楽しい16.11%（53）と、大半のものが楽しいと回答している。



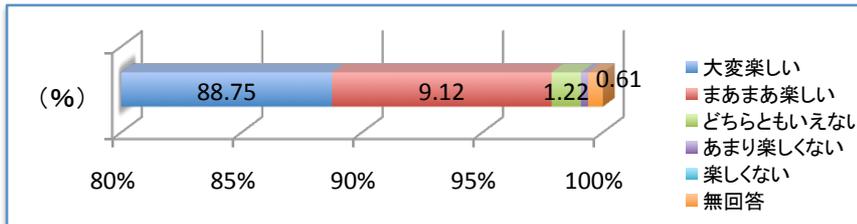
<タグラグビーが楽しいか楽しくないか 図-9>

<タグラグビーが楽しいか楽しくないか 表-10>

タグラグビーが楽しいか 楽しくないか	(%)	n
大変楽しい	80.24	264
まあまあ楽しい	16.11	53
どちらともいえない	2.43	8
あまり楽しくない	0	0
楽しくない	0	0
無回答	1.22	4
合計		329

**タグラグビー参加者は、トライしたとき大変楽しい**

と88.75% (292)、まあまあ楽しい9.12% (30) とほとんどの人が、楽しいと回答している。



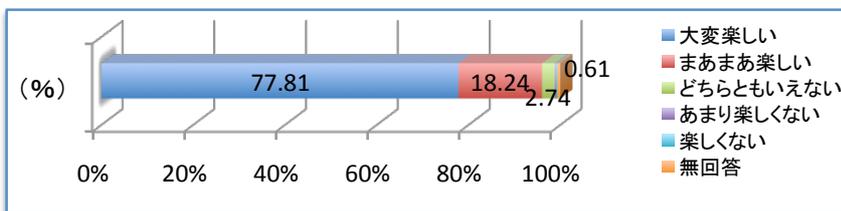
<トライをしたとき 図-10>

<トライをしたとき 表-11>

トライをしたとき	(%)	n
大変楽しい	88.75	292
まあまあ楽しい	9.12	30
どちらともいえない	1.22	4
あまり楽しくない	0.3	1
楽しくない	0	0
無回答	0.61	2
合計		329

**相手を抜いたとき、大変楽しい77.81% (256)、まあまあ楽しい18.24% (60) と回答している。**

と回答している。



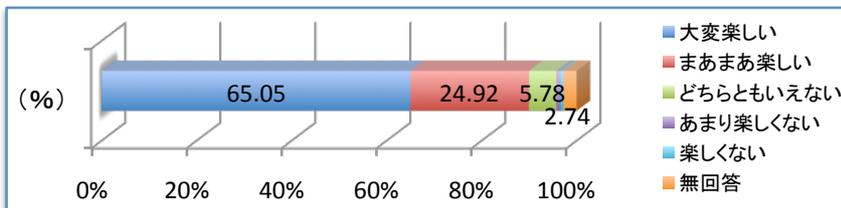
<相手を抜いたとき 図-11>

<相手を抜いたとき 表-12>

相手を抜いたとき	(%)	n
大変楽しい	77.81	256
まあまあ楽しい	18.24	60
どちらともいえない	2.74	9
あまり楽しくない	0.3	1
楽しくない	0.3	1
無回答	0.61	2
合計		329

**パスが繋がったとき、大変楽しい65.05% (214)、まあまあ楽しい24.92% (82)、どちらともいえない5.78% (19) であった。**

であった。



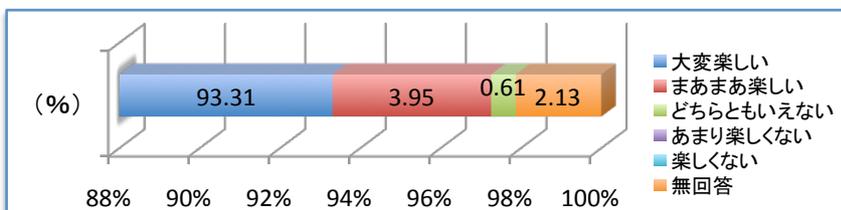
<パスが繋がったとき 図-12>

<パスが繋がったとき 表-13>

パスが繋がったとき	(%)	n
大変楽しい	65.05	214
まあまあ楽しい	24.92	82
どちらともいえない	5.78	19
あまり楽しくない	0.91	3
楽しくない	0.61	2
無回答	2.74	9
合計		329

**勝ったとき 大変楽しい93.31% (307)、まあまあ楽しい3.95% (13) であった。**

であった。



<勝ったとき 図-13>

<勝ったとき 表-14>

勝ったとき	(%)	n
大変楽しい	93.31	307
まあまあ楽しい	3.95	13
どちらともいえない	0.61	2
あまり楽しくない	0	0
楽しくない	0	0
無回答	2.13	7
合計		329

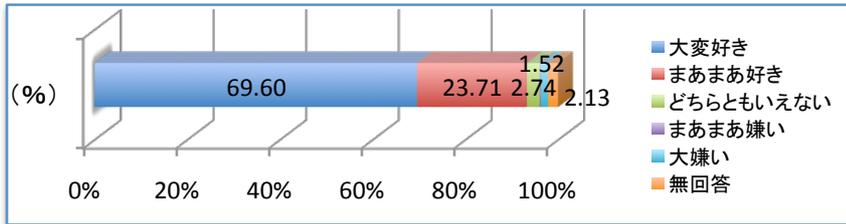
大変楽しいと回答した項目でもっとも大変楽しいと回答したのが、「勝ったとき」の93.31%であった。次に、「トライしたとき」88.75%、「相手を抜いたとき」77.81%、「パスが繋がったとき」65.05%であった。

単純に比較し結論づけることは出来ないが、楽しみを感じているところがどこなのかを知ることが出来る。これにより、

指導の際に、トライする過程の大切さ、パススキル、ランニングスキルの向上があり、個人スキルのチームへの貢献ではじめて、勝つ喜び、トライする楽しみにつながるという、タグラグビーの特性を生かした指導につなぐことが出来ると考えられる。今後、どこにタグラグビーの楽しみがあるのかを調べていくことも大切になってくるだろう。

**運動が好きか、嫌いについては、**運動が大変好き

69.60% (229)、まあまあ好き23.71% (78)、どちらともいえない2.74% (9)、大嫌い1.52% (5)となっている。しかし、ラグビーが楽しいと回答したものと照らし合わせて考える必要がある。



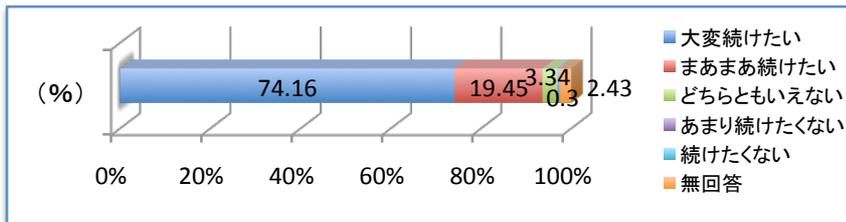
<運動が好きか嫌い 図一14>

<運動が好きか嫌い 表一15 >

運動が好きか嫌い	(%)	n
大変好き	69.60	229
まあまあ好き	23.71	78
どちらともいえない	2.74	9
まあまあ嫌い	0.3	1
大嫌い	1.52	5
無回答	2.13	7
合計		329

**なにか運動を続けたいか、続けたくないかについては、**

運動を大変続けたい74.16% (244)、まあまあ続けたい19.45% (64)と続けたい人が大半を占めている。イベント参加者に照らし合わせて考えると、当然だが、今後も運動を行いたいと多くの人が考えている。この欲求に答えるのが、オフィシャルの立場にある人だろ



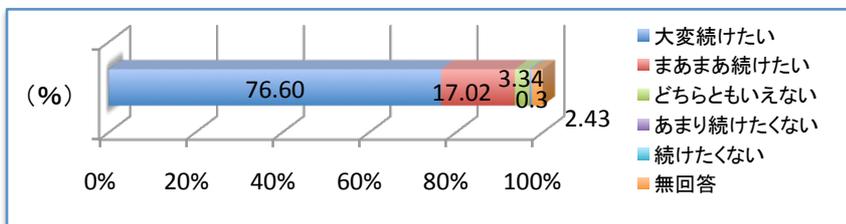
<なにか運動を続けたい 図一15>

<なにか運動を続けたい 表一16>

なにか運動を続けたい、続けたくない	(%)	n
大変続けたい	74.16	244
まあまあ続けたい	19.45	64
どちらともいえない	3.34	11
あまり続けたくない	0.3	1
続けたくない	2.43	8
無回答	2.43	8
合計		329

**ラグビーを続けたいか、続けたくないかについては、**

ラグビーを大変続けたい76.60% (252)、まあまあ続けたい17.02% (56)、どちらともいえない3.34% (11)となっており、90%を超えるものが、ラグビー継続の意志がある。活動の場所、機会を今後も提供していくことが望まれる。

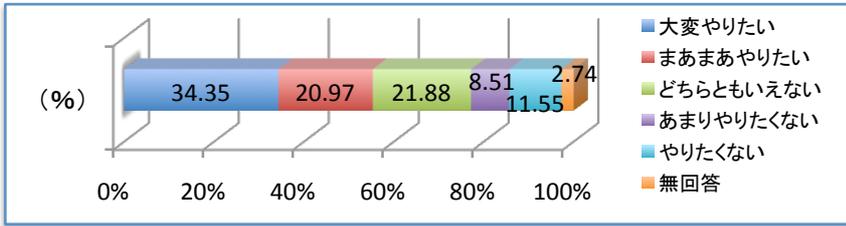


<ラグビーを続けたい 図一16>

<ラグビーを続けたい 表一17>

ラグビー続けたい、続けたくない	(%)	n
大変続けたい	76.60	252
まあまあ続けたい	17.02	56
どちらともいえない	3.34	11
あまり続けたくない	0.3	1
続けたくない	2.43	8
無回答	2.43	8
合計		329

**本格的なラグビーについて**、大変やりたい34.35% (113)、まあまあやりたい20.97% (69)、どちらともいえない21.88% (72)、あまりやりたくない8.51% (28)、やりたくない11.55% (38) となっている。55%のひとがラグビーを行いたいと考えている。



<本格的ラグビー 図一17>

ラグビー経験者と未経験者が、本格的なラグビーに対してどのように考えているのかを分析したところ、全体でラグビー未経験者(165)においても、大変やりたい7.29% (24)、まあまあやりたい10.33% (34) と約18%が本格的ラグビーを行いたいと考えていることが分かった。未経験者のみでは、大変やりたい15.0% (24)、まあまあやりたい21.0% (34) と36%が本格的

ラグビーを行いたいと考えていることが分かった。

ラグビーを行っても、ラグビーにつながらないという従来の批判に対して、「タグ経験者であっても本格的ラグビーへの転換を考えている」という欲求が少なからずあることが分かった。今後は、この欲求、本格的ラグビーへどのように導いていくかの仕組み作りが重要となってくる。

<本格的ラグビー 表一18>

本格的ラグビーをやりたいか、やりたくないか	(%)	n
大変やりたい	34.35	113
まあまあやりたい	20.97	69
どちらともいえない	21.88	72
あまりやりたくない	8.51	28
やりたくない	11.55	38
無回答	2.74	9
合計		329

<ラグビー経験が本格的ラグビー実施意識について 表一19>

本格的ラグビーラグビー経験	大変やりたい	まあまあやりたい	どちらでもない	あまりやりたくない	やりたくない	無回答
ある	27.05% 89	10.33% 34	5.47% 18	2.74% 9	1.22% 4	2.13% 7
ない	7.29% 24	10.33% 34	16.11% 53	5.78% 19	10.03% 33	0.61% 2
無回答	0.00% 0	0.30% 1	0.30% 1	0.00% 0	0.30% 1	0.00% 0
	34.35% 113	20.97% 69	21.88% 72	8.51% 28	11.55% 38	2.74% 9

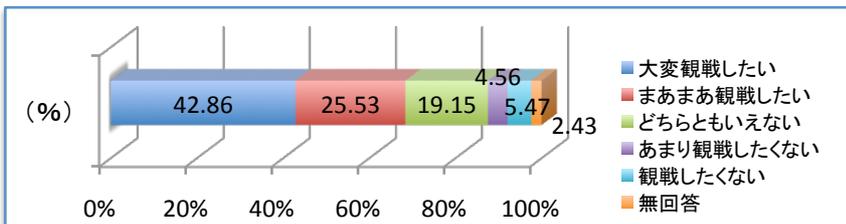
**実際のラグビー観戦をしたいかについては**、実際のラグビーを大変観戦したい42.86% (141)、観戦したい25.53% (84)、どちらともいえない19.15% (63)、あまり観戦したくない4.56% (15)、観戦したくない5.47% (18) と、約68%の人がラグビー観戦に前向きとなっている。

ラグビー経験者の有無についてみた場合、ラグビー経験がなくても、大変観戦したい14.89% (49)、まあまあ観戦したい15.20% (50) となっている。未経験者でも30%のものがラグビー観戦を望んでいることが分かる。(未経験者のみだと60%)

これらの未経験者層に対して、積極的に試合の告知やイベントの案内を提供することで、効果的な広報宣伝が行える。実際のラグビー観戦から、さらに、タグラグビーの魅力、しつては本格的ラグビーへの道が開ける可能性が高いと考えられる。

<ラグビー観戦 表一20>

実際のラグビー観戦をしたい、したくない	(%)	n
大変観戦したい	42.86	141
まあまあ観戦したい	25.53	84
どちらともいえない	19.15	63
あまり観戦したくない	4.56	15
観戦したくない	5.47	18
無回答	2.43	8
合計		329



<ラグビー観戦 図一18>

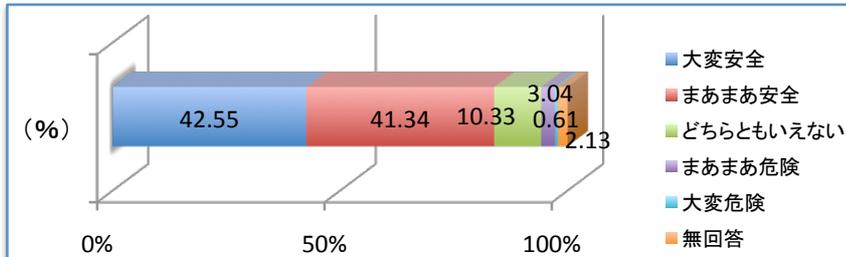
<ラグビー経験が観戦に影響するか 表一>

ラグビー観戦ラグビー経験	大変観戦したい	まあまあ観戦したい	どちらでもない	あまり観戦したくない	観戦したくない	無回答
ある	27.96% 92	10.03% 33	6.99% 23	1.52% 5	0.91% 3	1.51% 5
ない	14.89% 49	15.20% 50	12.16% 40	2.74% 9	4.56% 15	0.61% 2
無回答	0.00% 0	0.30% 1	0.30% 0	0.00% 1	0.30% 0	0.00% 1
	42.86% 141	25.53% 84	19.15% 63	4.56% 15	5.47% 18	2.43% 8

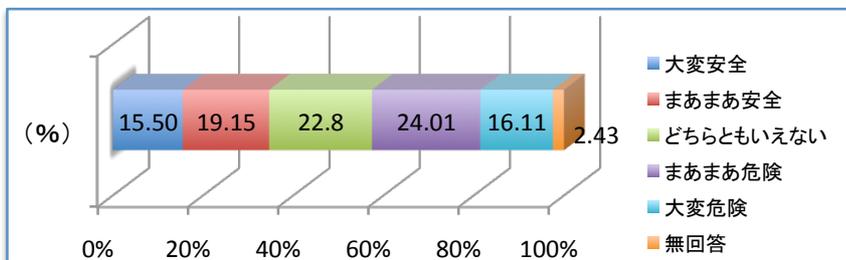
**ラグビーは安全か、危険かについて、大変安全**

42.55% (140)、まあまあ安全41.34% (136)と約84%の人が安全だと感じている。一方、ラグビーに関しては、大変安全15.50% (51)、まあまあ安全19.15% (63)と34%の人が安全だと感じている。

逆に、危険だと感じている人は、ラグビーでは、まあまあ危険3.04% (10)、大変危険0.61% (2)となり。ラグビーでは、まあまあ危険24.01% (79)、大変危険16.11% (53)となっている。40%の人がラグビーは危険だと考えている。



<ラグビーの安全について 図-19>



<ラグビーの安全について 図-20>

<ラグビーの安全について 表-21>

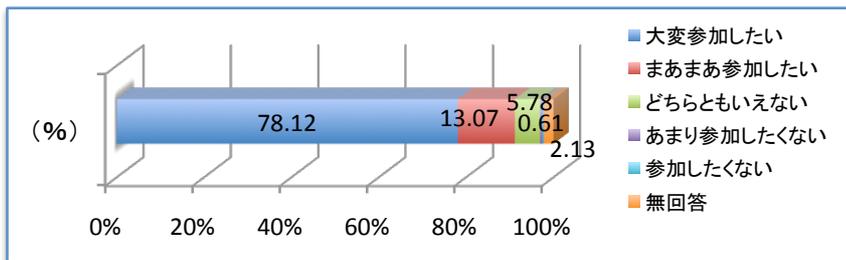
ラグビーは安全もしくは、危険だと感じる	(%)	n
大変安全	42.55	140
まあまあ安全	41.34	136
どちらともいえない	10.33	34
まあまあ危険	3.04	10
大変危険	0.61	2
無回答	2.13	7
合計		329

<ラグビーの安全について 表-22>

ラグビーは安全もしくは、危険だと感じる	(%)	n
大変安全	15.50	51
まあまあ安全	19.15	63
どちらともいえない	22.80	75
まあまあ危険	24.01	79
大変危険	16.11	53
無回答	2.43	8
合計		329

**来年の大会にも参加**

したいか、参加したくないかについては、大変参加したい78.12% (257)、まあまあ参加したい13.07% (43)、どちらともいえない5.78% (19)と回答している。90%以上のものが来年度の大会参加を考えている。



<来年度の大会参加について 図-21>

<来年度の大会参加について 表-23>

来年の大会にも参加したい、したくない	(%)	n
大変参加したい	78.12	257
まあまあ参加したい	13.07	43
どちらともいえない	5.78	19
あまり参加したくない	0.61	2
参加したくない	0.3	1
無回答	2.13	7
合計		329

**【結論】**

学校でのラグビー活動とともにラグビースクール経験者も多くラグビーに参加していることが分かった。また、運動好きなものも多く、ラグビーの継続希望が高く、来年度の大会参加希望も高い。

大雑把な仮説を立てたが、仮説①ラグビーを継続する希望があるといえる。仮説②ラグビー参加者は、ラグビーに興味があるは、ラグビー未経験者であっても36%の人が興味を示し、観戦についても未経験者だけをみた場合60%ものが興味を示している。これらは、決して低い数値ではないと考えられる。仮説③ラグビー経験が本格的ラグビー実施へと繋がる仮説は、実際の行動を調査することが待たれる。そのため、結論づけることは出来ないもの

の、本調査の結果は、ラグビー未経験者が、ラグビーに対して積極的な意志を示していることから、環境を整えることで、ラグビーへの世界へと入る可能性を大いに秘めているといえるのではないだろうか。

ラグビーから、ラグビーへの取り組みは、用意周到な仕組み作りを行い、ラグビー関係者が一丸となって取り組んでいくことが重要である。All for One, One for All.

最後に、調査の機会をお与え下さった、長手信行氏と普段から普及活動を支える、関西ラグビーフットボール協会普及委員会の皆様、当日、休日を返上し子どもたちを引率した方々に感謝申し上げます。

大松竜二